

YU 夢 ME

もくじ

川柳.....	2
蓄音機コンサート.....	3
ご入居者インタビュー.....	4
熱いハートで行動を.....	5
秋川雅史 長寿園コンサート.....	6

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき、高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことにより社会に貢献します。

【発行所】
一般財団法人 長寿会
 小田原市入生田475
 TEL.0465-24-0002(代)
 発行人/加藤 伸 一
 編集/「夢」編集委員会

**報
告**



入居者
池田 邦子

朝、ベランダに出ると、爽やかな風が気持ちよい今日は、二〇一五年三月一七日です。Mさん、私の十余年に渡る両親との自宅での介護生活、そして終わりの三、四年は私自身もいくつかの故障で苦しむなど、悪戦苦闘している私をいつも気遣っていて下さいましたね。それは突然、「余命数ヶ月」と宣告され、苦しい闘病生活を送られた最中も同じでした。そんな貴女に、私のその後の事をまだお話ししていませんでしたね。遅くなつてごめんなさい。

朝、ベランダに出ると、爽やかな風が気持ちよい今日は、二〇一五年三月一七日です。Mさん、私の十余年に渡る両親との自宅での介護生活、そして終わりの三、四年は私自身もいくつかの故障で苦しむなど、悪戦苦闘している私をいつも気遣っていて下さいましたね。それは突然、「余命数ヶ月」と宣告され、苦しい闘病生活を送られた最中も同じでした。そんな貴女に、私のその後の事をまだお話ししていませんでしたね。遅くなつてごめんなさい。

に貴女が逝かれ、その二年後に私の良き理解者であり、母の介護に当たっては戦友のようであつた父が九六歳で亡くなりました。茫然自失していたその二ヶ月後、東日本での大震災が起きました。私が地震に遭つたのはお命日も近いので、貴女のお墓参りをした帰路でした。乗っていた電車は船のように揺れ、そのうち動かなくなつてしまいました。あれから四年経ちましたが、日本にとつても、私個人にとつても忘れてはならぬ大きな出来事です。

Mさん、その夏、貴女も知つての通り、万事にスローな私がよくやれたと思うほど、毎日毎日父母と私のそれと家始末いに働き、妹夫婦が自宅の近くに用意してくれていた、栃木県野崎の一軒家で羽を休ませてもらい始めたのは九月の末でした。妹夫婦は今も昔も陰になり日向になり、私を支えてくれている有難い存在です。

野崎の木造の駅舎を出ると前方に那須の山々が連なり、清冽な空気が漂う中で人々が穏やかに、ゆつくりと暮らされています。この自然と優しくして下さった人々のお陰でキリキリしていた神経が少しずつ緩んでいく日々を送りました。それでも将来へのいくつかの不安もよぎり、あの大変だった引越越しをもう一度と考えると、まだ余力のある「今でしょ」と、終の棲家を考えました。場所は二十数

〈次ページに続く〉

年前、ふと立ち寄った有楽町での老人ホーム説明会で出会った長寿園。ずっと次は……。と思っていたホームでした。

私の希望に合い、近年先住しておられた親しい友の的を得たアドバイス、入居担当の方の本当に親身になって、私の希望に添うように交渉して下さった粘り強い努力に感謝しつつ、二年前の四月に移住しました。

野崎で知り合った方が遠い道のりを運んで下さった荷物が夜着いた時、お世話になっていた担当の方と初めてお会いするヘルパーの方が、この部屋に入ると危ぶまれた荷物がやっと収まり、私の寝る空間が確保できたこと判った夜遅くまで、ずっと一緒にいて下さいました。いわゆるお仕事を超えてのお心遣い、どんなに心強かったか。今でも感謝です。次の日から「こんにちは」「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」と入居者の方からのご挨拶にも心が和みました。嬉しかったです。

Mさん、こうやって今私はホームのスタッフの方々、入居者の方々、縁あってお隣さんになられた方、そして長年の友に

さりげなく助けて頂きつつ静かに暮らしています。自然いつぱいの園から隣の駅まで、時には足をのばして海岸まで、夕食の買い物も兼ねてテクテク歩くのが今の楽しみです。山を見上げ、樹々を眺め、花を見つけながら自分のペースでゆっくり歩きます。道が乾いている日に。手があくよう、リュックにして入居者証を持って。
長くなりました。Mさん、貴女にこれまでの報告をしてほっとしました。そう遠くない「いつか」また、お会いしましょう。山が大・大好きだった貴女のそちらでの山行きの話、楽しみにしています。



気持ちを癒してくれた花

川柳

入居して早寝早起き
山 下 君子

いいリズム
新聞をメガネ無しでも
読む卒寿

東電はまた非公開汚染水
腰痛へ医師はいつでも
事も無げ
田中 和子

長生きに感謝病気の問屋でも
腰痛のつらさに耐えて
青木 千代

肩こって気付く
セーター後ろ前
長谷 賀

先の事考えていて間が抜ける
落ち着けばもう退院を
待ちわびる
竹中 糸子

ピンチこそやさしい愛に
助けられ
雨宮 泰子

古写真こんなにならった髪の量
国難に切ってはならぬ
急カーブ
小池 怜子

ポケットが無くて気付いた
裏返しベストが
タグを見せている
田川 富子

短歌

わが庭の黄に群れ咲ける
土佐みずき
鈴木 芳子

ひと雨ごとに春めく嬉し
求めこし琉球ガラスの
花と壺
夫と旅せし遠き日を恋ふ

蓄音機 コンサート



理事長 加藤 伸一

二月一日、ロビーにて蓄音機コンサートを行いました。これまででは全く不定期に行っていました。三回目となりました。蓄音機は以前にも紹介しましたが、一九二五年(大正一四年)製のアメリカのビクトロラです。九〇年前の最新鋭の物です。それまでの蓄音機は、ぜんまいでテールを回すものでしたが、これは電気モーターでテールを回すものです。しかし、音は電気式ではありません。故人の元ご入居者が昭和の初めに手に入れられたものを戦後、生活難より手放されてしまい、ご入居後、北海道にあるのを知り、買い戻され、長寿園に寄贈いただきました。故人は、戦前より、芸能芸術の世界で活動されていた方です。

蓄音機の魅力は、その音色が限りなく、生演奏のものに近いからではないでしょうか。

現代の音楽再生機は、全てデジタルです。正確ではありませんが、コンピュータ化されているといった方がイメージがわかりやすいかもしれません。そして、それは、とてつもなく小型化されています。録音から再生まですべてが電気仕掛けで、生の演奏とはずいぶん感動が違います。その点、蓄音機は、レコード盤(SP盤)に、生の演奏や歌声が吹き込まれ、そして、鉄の針で再生し、電気による増幅なしで、スピーカーから音色が流れます。音量調整装置などありません。生演奏の音量です。一般家庭では音が大きすぎて、昔はちよっと聞くというわけにはいかなかったと思いま

す。

今回も二〇名以上のご入居者が集まれ、約四〇分間、なつかしい歌声に聞き惚れました。途中で止まってしまったり、同じ箇所を何度も繰り返してしまったり、笑いも出ますが、皆さん小さいころに経験をしているのでそれも懐かしさのひとつです。曲は主に、昭和三〇年前後の歌謡曲が中心です。三〇年代中ごろ以降は、蓄音機は世の中から姿を消し、レコード盤も電気式のLP盤になります。SP盤がたくさんあるわけではないのでレパートリーは限られませんが、皆さん何とも言えない面持ちで曲に酔いしました。蓄音機で聞く音楽は、そこに歌手や演奏者がいるわけではありませんが、何故か、温かみがあり、目を瞑れば、演奏者がそこにいるような錯覚におちいります。これがいわゆるアナログのよさです。

残念ながら、昭和一〇年代の音楽は軍国色強く、皆様好まれません。それ以前は、日本音楽の黎明期で、歌謡曲的なものはなく、主に西欧の歌手のクラシックかアメリカのジャズで

す。それらのSP盤もあるので、ご入居者には馴染みがありません。一昔前は、ディックミネや灰田勝彦、近江俊郎、淡谷のり子といった人たちが懐メロといわれ大変流行りましたが、現代歌謡曲の走りは、美空ひばりや春日八郎、三橋美智也の歌です。

「歌は世につれ、世は歌につれ」という名文句がありました。が、まさにその通りで、今のご入居者が懐かしがられるのはこの時代の歌です。

SP盤の音楽鑑賞は間もなく骨董的なものになってしまうと思いますが、長寿園の宝として続けていきたいと思えます。





今回、お散歩仲間四人組の岡田和代子様・西本あき様・鈴木陽子様・渡邊三重子様にお話を聞かせていただきましたのでご紹介させていただきます。

お散歩は毎朝A棟裏の道路からスタートしてみかん園の通りを枝垂桜方面に向かって歩いていきます。

岡田 「最初は西本さんと私でお散歩をはじめたの。その後メンバーが自然に増えたわ。健康・閉じこもり予防・おしゃべりを楽しむ」

鈴木 「今まで市内の体操教室に通っていたけど、年齢制限があり切り換えたのよ」

渡邊 「入居後はあまり歩かなくなりましたが、上からみんなが歩いていくのが見えたから、外を歩くのが一番だと思ひ参加するようになりました」

岡田 「散歩コースの坂道が私

たちにはちょうど良い運動になってるのよ。健康維持の秘訣だわ」

西本 「この花、なんて言ったかな？」



デンナンショウ

鈴木 「ザゼンソウかしら？ちよつと違うかな？」(散歩を終えてテンナンショウとわか

る)

西本 「紫色で座禅を組んでいるように見える花だけど、色がいつもと違うような気がする」

みかん園の道路を歩いていくと高橋久雄様が歩いてこられる。枝垂桜まで行った帰りとの事。

岡田 「あら、どこまで行ってきたんですか？ 桜まで？」

高橋 「枝垂桜まで行ってきました。徐々に良くなってきたんで」

そのまま歩いていくと高津学様が畑の手入れをしています。キャベツやグリーンピースなど色々作っているようです。

岡田 「今日は早いわね。いつもはこの時間にいないものね」

高津 「いつもはもつと早いので」

皆さんみかん園の道路の終わる端まで歩いていきます。

手嶋 「昔はよく歩いていた。四〇分位かしら」

渡邊 「川のせせらぎやきれいな空気に囲まれ気持ちいいわ」

鈴木 「そうね」

山林の道に入っていくと、

手嶋 「せせらぎの音がいいですね」



鈴木・渡邊 「そうですね」

山林にある幾つかのせせらぎは、その場所によって奏でる音





色に違いがあり、心を和ませてくれます。心地よい空気に包まれながら歩いてきた山林を抜け、枝垂桜までやってきました。

鈴木 「あら、お店が出てるわよ」

手嶋 「今年は早いわね。今日天気がいいから、もうすぐね」

枝垂桜周辺にはユキヤナギやスイセンなど、季節を感じさせてくれる花が咲いています。

手嶋 「タンポポって眠るのよ。東京にいる頃は知らなかったのよ。光がなくなると花がとじるのよね」



渡邊 「そうなんですか？」

このように、お花を觀賞し、おしゃべりしながら、長寿園周辺のお散歩を楽しんでいるようです。今回取材にご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。

「夢」編集委員会

椎名 賢一
加藤 翔

僕は平成二六年四月から長寿園で働かせていただくようになり、一年が過ぎました。僕が介護福祉の仕事に興味を持ったきっかけは、高校三年生時の授業の一環として介護福祉の現場に行ったことでした。就職活動を進める中で長寿園を知りました。

初めて出勤したときは、とてもきれいなところで職員の方々やご入居者の皆様が優しく自分分に合った職場だなと思いました。

入社してから研修が始まりました。C棟での研修では、ある程度は想像していましたが、寝たきりの方や足の不自由な方を目の当たりにして、とても驚きました。研修を終え、C棟に所属が決まった時には、ちゃんと介護の仕事ができるか不安でした。初めて車椅子への移乗介助

の時にはイメージ通りにいかず、また、僕の知らない介護の言葉がたくさん使われていて、仕事を進めるうえでも諸先輩方に迷惑ばかりかけていました。

今ではたくさんさんの仕事を任せただけでなく、顔と名前を憶えていただき、デイルームではゲームや体操をして、とても遣り甲斐があり楽しく充実した気持ちです。

寮生である僕は、A B D棟のご入居者の皆様にも優しく接していただいて、とても感謝しています。

三月に入ってから夜勤業務を見習うようになりました。これからも頑張っていきたいので、よろしくお願い致します。



**熱いハートで
行動を!**



ヘルパー 額賀 将希

秋川雅史 長寿園コンサート

平成27年3月4日(水)午後2時～ 長寿園大ホールにて「千の風にのって」で有名な秋川雅史氏のコンサートが行われました。ご入居者及び長寿園関係者、総勢200名の方がその歌声に酔いしれ、外出が困難な方々もコンサート会場さながらの雰囲気を楽しんでいただきました。



60周年記念に植樹した桜

「夢」編集委員会

昨年四月に長寿園創立六〇周年を記念に植樹した桜が、今年の四月に咲きました。昭和二九年に三名のご入居者からスタートして今日では百数十名を超えるまでになりました。ご入居者の皆様と共に歩んできた六〇年、世の中の環境や制度等が移りかわっても、理念である「円満幸福の生活」への姿勢はぶれることなく、柔軟に対応してきた結果ではないかと思っております。これからも職員が足並みをそろえて六〇年の軌跡に相応しいサービスの提供に精進してまいります。

